

1. 科目名 (単位数)	保育内容研究特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6313
2. 授業担当教員	戸次 佳子		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容に関わる科目を履修していること	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>幼児教育の歴史の変遷から保育内容の理念とそのあり方を理解し、その上で今日的な保育内容のあり方を検討し理解を深める。今日の保育内容と方法の考え方が明治以降の歴史の変遷を経て日本の幼児教育の理念として確立し、その上で今日のような捉え直しが始まっていることを検討していくことにする。</p> <p>諸外国の幼児教育の内容と実践を今日の日本の幼児教育が抱えている課題や必要性和関係付けながら授業を展開していきたい。</p>		
8. 学習目標	<p>① 幼教育施設や保育所施設のない時代の「子育て」としての「保育内容」を基に幼児教育の理念と内容の関係を理解する。</p> <p>② 幼児教育の歴史、思想から保育内容の理念と内容の関係を理解する</p> <p>③ 現行幼稚園教育要領、保育所保育指針の「保育内容と方法」の特質と教育基本法、学校教育法、児童福祉法の改定との関係を理解する。</p> <p>④ 諸外国の幼児教育の内容と方法の理論と実践と日本の幼児教育の内容とを比較する。</p> <p>⑤ 幼児教育の内容と方法を小学校教育と関係づけながら、学校教育全体の課題として捉え直す。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>シラバスの課題に関すること。</p> <p>別途指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』 萌文書林</p> <p>【参考文献】 関口はつ江編著『保育の基礎を培う・保育原理』萌文書林 友定啓子・青木久子「領域研究の現在 人間関係」萌文書林 平山許江「領域研究の現在 環境」萌文書林 青木久子・小林紀子「領域研究の現在 言葉」萌文書林 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに社 国立教育政策研究所教育課程研究センター『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに株式会社 江島正子訳『モンテッソーリの実践理論 - カリフォルニア・レクチュア』サンパウロ J.ヘンドリック編著、石垣恵美子、玉置哲淳訳『レッジョ・エミリア保育実践入門』北大路書房 日本保育学会編『諸外国における保育の現状と課題』世界文化社 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 文部科学省編「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館</p> <p>その他必要に応じて参考文献を示す、又はプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1 「保育内容」の概念を理解しているか</p> <p>2 保育・教育の目的、目標、ねらい、内容、経験、活動の関連を意識しているか</p> <p>3 多様な保育・教育実践を「保育内容」の視点から理解、説明できるか</p> <p>○評定の方法</p> <p>期末試験 40%、 課題レポート 40% 授業参加態度 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業形態は講義となっているが、受講生と対話的に授業を進めていきたい。そのため受講生はシラバスに明記してある「学習の内容」を手がかりにして教科書及び参考文献を読んで授業に参加するようにしてほしい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知する。</p>		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	<p>幼児教育の歴史、思想から保育内容の理念、内容、あり様を理解する 1</p>		
【学習の目標】	<p>「子育て」としての「保育内容」を基点にして、幼児教育の理念と内容の関係を理解する。</p>		
【学習の内容】	<p>生物としての「人」にとっての「保育」「教育」の意味を考え、「保育や教育」という言葉のない時代の幼児教育のあり様とその内容について調べ、「保育の理念」と「保育内容」の結びつきを理解する。</p>		
【キーワード】	<p>「子どもを産み育てることと子育て」「保育と教育」「意図的教育と無意図的教育」</p>		
【学習の課題】	<p>「保育内容」の意味を「子どもを産み育てる」ことの意識的行為の生成まで立ち返り、「保育」「教育」という言葉のない時代の「保育内容」の意味を纏める。</p>		
【参考文献】	<p>民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林</p>		
【学習する上での留意点】	<p>幼児教育の理念と内容の関係を「子どもを産み育てる」行為として広く捉えてみる。</p>		
2. 3 テーマ	<p>幼児教育の歴史、思想から保育内容の理念、内容、あり様を理解する 2</p>		
【学習の目標】	<p>わが国の「保育内容」の変遷を幼稚園、保育所(託児所)の誕生と展開と関係付けて理解することが出来る。</p>		
【学習の内容】	<p>幼稚園、保育所(託児所)の誕生の経緯を調べ、その後の保育内容に影響を与えた外国、日本の主な幼児教育家の思想と理論と実際について知る。</p>		
【キーワード】	<p>「幼稚園の誕生」「保育所(託児所)の誕生」「フレーベルの恩物」「モンテッソーリの教育」「倉橋惣三」「城戸幡太郎」</p>		
【学習の課題】	<p>「保育内容」を幼稚園、保育所(託児所)の誕生の契機まで遡って捉えなおし、その後の変遷の過程とそれに影響を与えた思想と理論とを実際に即しながら整理し纏める。</p>		
【参考文献】	<p>民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林</p>		

<p>文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに社 【学習する上での留意点】 幼稚園、保育所(託児所)の誕生の契機、意図をしっかりと捉え、その後の幼稚園、保育所(託児所)の保育の特徴と内容にどのような影響を与えることとなったか、考えながら学ぶ。</p>	
4. 5. テーマ	<p>幼児教育の歴史、思想から保育内容の理念、内容、あり様を理解する 3</p>
<p>【学習の目標】 戦後のわが国の幼児教育・保育の内容を方向づけた保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の歴史の変遷を辿りながら、それぞれの時代の保育内容の性格と特徴について理解する。 【学習の内容】 時代的背景を基に保育要領の基本的な考えを理解する。幼稚園教育要領、保育所保育指針のその後の改定と変遷を辿りながら、「保育内容」の特質を理解する。 【キーワード】 「児童中心主義」「保育 12 項目」「望ましい経験や活動」「5 領域」「援助」 【学習の課題】 保育内容の変遷を時代的背景を基にしなが、その性格や特質ごとに纏め整理をして理解する。 【参考文献】 民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林 【学習する上での留意点】 保育要領、そして、各時代の幼稚園教育要領、保育所保育指針を丁寧に比較しながら、それぞれの保育内容の特質について理解を深める。</p>	
6. テーマ	<p>現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の「保育内容」の特質と教育基本法、学校教育法、児童福祉法の改定</p>
<p>【学習の目標】 今日の学校教育、児童福祉に関する一連の改革の中での現行幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育内容の特質を理解する。 【学習の内容】 教育、福祉に関する一連の改革の中で、その影響が現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の「保育内容」の中にどのように反映されているかを理解する。 【キーワード】 「教育基本法」「学校教育法」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」「子ども・子育て支援新制度」「小学校学習指導要領」「認定こども園」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 【学習の課題】 児童の権利に関する条約の批准、教育基本法の改定以降の法律や制度の一連の改革が「保育内容」にどのような影響を与えているか、その変化を辿りながら整理し、理解を深める。 【参考文献】 民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』萌文書林 【学習する上での留意点】 教育の改革と福祉の改革を単に比較するだけでなく、それが相互にどのような影響を与えているかを調べ、考えながら理解をする。</p>	
7. テーマ	<p>現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育内容の理解を深める 1</p>
<p>【学習の目標】 現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の「保育内容」の理解を深めるために、改めて何故幼児期の教育、保育において「環境を通しての教育」、「養護と教育とが一体となった保育」が重要なか理解する。 【学習の内容】 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷の過程を辿りながら、「環境を通しての教育」、「養護と教育が一体となった保育」の意味と意義についての理解を深める。 【キーワード】 「広義の教育と狭義の教育」「幼児期の特性」「教育と保育」「発達の特長」「自発的活動としての遊び」「主体的活動」「指導と援助」「養護」 【学習の課題】 幼稚園教育要領、保育所保育指針の中で、一見平易な言葉で記述されている「教育」「保育」「自発的活動」「主体的活動」「主体的活動」「養護」「指導」「援助」等の言葉の概念分析を厳密に行いつつ、上記の「学習の内容」の理解を深める。 【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 【学習する上での留意点】 上記の「学習の課題」で行った概念分析を単なる「分析」の為の「分析」にしてしまわないように、それぞれの「概念(言葉)」が相互のどのように関係があるのか、関係付けながら理解する。</p>	
8. テーマ	<p>現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育内容の理解を深める 2</p>
<p>【学習の目標】 現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の「保育内容」の理解を深めるために、改めて「生活と遊びの総合性」と「領域」の意義について理解する。 【学習の内容】 下記のキーワードを中心に文献を通してキーワードの言葉の持っている意味を確認、理解するとともに、事例を通して具体的に理解を深める。 【キーワード】 「生活」「遊び」「経験の意味」「総合する主体」「ねらいと内容」「幼児の発達の側面と領域」 【学習の課題】 ここで掲げているキーワードの意味を正確に理解し、その上でキーワードごとに具体的事例を講義を通してだけでなく、自分で探し理解を深める。 【参考文献】 民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林 【学習する上での留意点】 本時で挙げているキーワードは、多義的な意味を持っている。キーワードの持っている意味を正確に理解する。</p>	
9. テーマ	<p>現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の「保育内容」の理解を深める 3</p>
<p>【学習の目標】 現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育内容の理解を深めるために、幼児教育において、改めて「幼児期にふさわしい生活を通して(教育・保育する)」ことの意味と意義を理解する。 【学習の内容】 学校教育法(第 22 条)では、敢えて「幼稚園では…幼児を保育し…」と規定されている。そして、保・幼・小の連携と接続を考慮する為に幼稚園教育要領、保育所保育指針の双方で「幼児期にふさわしい生活を通して」ということが強調されている。ここでは、「保育」と「生活を通した」教育・保育の関係について歴史の変遷を踏まえて理解を深める。 【キーワード】 「倉橋惣三の生活の意味と意義」「城戸幡太郎の生活の意味と意義」「自発的活動としての遊び」「遊びの主体性」「生活と遊び」「養護と教育の一体」「幼稚園教育の基本」 【学習の課題】 上記キーワードに即して1つ1つの文献を読み直すことを通して、幼児教育・保育において「幼児期にふさわしい生活を通して(教育・保育する)」ことの意味と意義についての再理解を深める。 【参考文献】 日本保育学会編『保育学講座 3 保育のいとなみ - 子ども理解と内容・方法』東京大学出版会 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 【学習する上での留意点】 本時の学習は、テーマ、学習の目標、学習の内容とも、今までの講義と学習を踏まえて行われる。改めて、日本の幼児教育・保育が「幼児期にふさわしい生活を通して」行われてきたことの意味と意義を学習し理解を深める。</p>	

10.テーマ	モンテッソーリの教育から保育内容を考える
【学習の目標】	モンテッソーリの教育思想 - 人間観、子ども観、教育観と教育実践・理論 - 自発性、環境、感覚教具、保育者の役割の関係を理解する。
【学習の内容】	子どもの家の教育内容と方法を下記のキーワードの理解を深めながら理解していく。
【キーワード】	「子どもの家」「環境」「モンテッソーリ教具」「感覚教育」「敏感期」「自発性」「保育者の役割」
【学習の課題】	上記のキーワードを相互に関係付けながらモンテッソーリの幼児教育の内容と方法について纏める。
【参考文献】	M.モンテッソーリ著、中村勇訳『子どもの発見』日本モンテッソーリ教育研究所
【学習する上での留意点】	モンテッソーリの教育内容、方法を日本の幼児教育にどのように活かし得るかを考えながら学んでいく。
11.テーマ	レッジョ・エミリアの幼児教育から保育内容を考える
【学習の目標】	レッジョ・エミリアの保育の実践と内容を通して、その保育の目的と基本的原理を地域性、歴史性と結びつけて理解する。
【学習の内容】	下記のキーワードに挙げた事項がレッジョ・エミリアの保育実践と内容にどのような役割と意味を持っているかを理解する。
【キーワード】	「ローリス・マラグッツィ」「アトリエリスタ」「ペダゴジスタ」「ドキュメンテーション」「プロジェクト学習」「エマーゼント・カリキュラム」「共同性」「親の役割」
【学習の課題】	日本の保育の考え方と上記のキーワードの意味、考え方を比較、対比しながら学びを深める。
【参考文献】	J.ヘンドリック編著、石垣恵美子、玉置哲淳訳『レッジョ・エミリア保育実践入門』北大路書房 C.エドワーズ、L.ガンディーニ、G.フォアマン著、佐藤学他訳『子どもたちの100の言葉』世織書房
【学習する上での留意点】	レッジョ・エミリアの保育の地域性、歴史を踏まえて理解する。
12.テーマ	諸外国の幼児教育と保育内容について調べ、日本の保育方法、内容と比較しながら理解を広げ、深める
【学習の目標】	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの幼児教育・保育の現状と課題を調べ、日本の幼児教育の制度、保育内容、方法を比較して理解を深める。
【学習の内容】	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの幼児教育、保育の制度、内容、方法の特質を下記のキーワードを中心に調べ纏める。
【キーワード】	「ヘッド・スタート教育」「福祉と教育の統合」「ナーサリースクール」「プレイグループ」「レセプションクラス」「KITA(総合幼児教育施設)」「母親学校」「集団保育所」「乳幼児保育所」
【学習の課題】	上記のキーワードを調べ、纏め整理した後、特に自分が興味を持った国の幼児教育の特質、内容、方法をより深く調べる。
【参考文献】	民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林
【学習する上での留意点】	上記の参考文献だけでは、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの幼児教育・保育の現状と課題を知り理解するためには不十分なので、授業では、上記参考文献の他に先行研究も調べておく。
13.テーマ	我が国の現行保育制度における保育実践上の課題を考える
【学習の目標】	幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における子どもの生活、遊びの展開などから子どもの育ちの実態を考える。
【学習の内容】	具体的な子どもの生活の実態や活動の事例から、保育理念、保育内容とされていることの実現され方、実践における課題をとらえる。
【キーワード】	「家庭との連携」「生活と遊び」「保育者とのつながり」
【学習の課題】	できるだけ保育現場の子どもと保育者の生活を観察し、子どもの側からの経験をとらえる。
【参考文献】	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (いずれも現行のもの)
【学習する上での留意点】	これまで学習してきた保育の歴史の変遷、諸外国の状況を現在の保育状況との関連で考察し、保育が社会と切り離せないことを理解すること、また、現在の保育の根底にある保育観、子ども観について学習者が自らのこととして主体的に考えること。
14.テーマ	幼稚園教育、保育所保育と小学校教育との教育内容、方法上の異同関係を知り、理解する
【学習の目標】	幼稚園教育、保育所保育の保育内容、方法と小学校教育の教育内容と方法との異同関係を幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領との具体的な比較を通して理解する。
【学習の内容】	下記のキーワードの意味を中心に小学校教育と幼稚園教育、保育所保育の異同関係を明確にして、幼稚園教育、保育所保育の独自性とその内容と方法の理解を深める。
【キーワード】	「幼稚園教育要領の教育内容の記述の仕方」「保育所保育指針の保育内容の記述の仕方」「小学校教育要領の教育内容の記述の仕方」「経験カリキュラム」「教科カリキュラム」「小学校教育と領域」「幼稚園教育と保育所保育と領域」「生活科の遊び」「生活科の活動」
【学習の課題】	小学校教育と幼稚園教育、保育所保育の比較をする際に、単に違いを知るだけでなく、同じ側面があることを知り、理解する。
【参考文献】	佐藤学『教育方法論』岩波書店
【学習する上での留意点】	幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領の記述の違いを明確に理解し、その上で教育内容の連続性の理解を深める。
15.テーマ	保・幼・小の連携と接続、保育内容の課題を、事例を通して理解する
【学習の目標】	保・幼・小の連携と接続の必要性と課題について、各幼稚園、保育園、小学校、地域性と関係づけて理解する。
【学習の内容】	保・幼・小の連携と接続の必要性と課題を「幼稚園、保育所からの必要性と課題」と「小学校からの必要性と課題」に分けて調べ検討し理解を深める。
【キーワード】	「幼稚園教育要領の改定」「保育所保育指針の改定」「小学校学習指導要領の改定」「教科」「生活」「小1プロブレム」「連携とは」「接続とは」「生活の連続性」「学びの連続性」「スタートカリキュラム」「合科的指導」「道徳と道徳性」「保育所児童保育要録」「認定こども園こども要録」
【学習の課題】	保・幼・小の連携と接続の必要性と課題は、実践ごとに異なっている。その実践を必要性と課題ごとに纏めて理解を深める。
【参考文献】	授業内で提示する。
【学習する上での留意点】	保・幼・小の連携と接続の必要性と課題は、それぞれの園、小学校の実情によって異なるところがある。そのことに十分留意し、そこから多くを学びたい。